

障がいのある人の創作活動の指標に関する研究

村谷, つかさ

<https://doi.org/10.15017/1931925>

出版情報 : 九州大学, 2017, 博士 (芸術工学), 課程博士
バージョン :
権利関係 :

氏名	むらや つかさ 村谷 つかさ		
論文名	障がいのある人の創作活動の指標に関する研究		
論文調査委員	主査	九州大学	教授 平井 康之
	副査	九州大学	准教授 知足 美加子
	副査	九州大学	准教授 中村 美亜

論文審査の結果の要旨

本研究では、福祉や芸術など異なる専門領域や立場の当事者や支援者が、障がいのある人の創作活動の存在意義を、社会との関係の中で領域を超えて議論できる仕組みとしての指標の構築を目的としている。研究対象とする範囲を、障がい者支援施設で行われている、知的障がいのある人の絵画・造形を中心とした活動に絞り、障がいのある人の創作活動の背景と課題について先行研究を踏まえ論述している。障がいのある人と支援者の関係性における課題を「言葉の概念・情報の整理に関する課題」「専門領域や立場の違いに関する課題」「価値判断の基準に関する課題」という3つの視点で整理している。

指標の作成にあたり、障がいのある人の創作活動を思想的にも実践的にも牽引し、各領域の壁を打ち破る原動力となっている人物5名の著書を対象に文献調査を行い、「障がいのある人」と「支援者が持つ意識」についての2つの項目表を案出している。次に、それら項目表の検証のため直接著者本人に対して主観評価とインタビュー調査を行い、創作過程に関する立場の相違点、および目的の類似点を主観評価結果による相関分析で明らかにしている。

そして得られた結果について総合的な考察を行い、項目表で各著者の方法論の相違点を明らかにすると同時に、各著者に共通した「障がいのある人を中心とした視点」を元にした「考え方の規範」を導出し、複合した論点による議論や実践となっていることを具体的に示している。

さらに、日々創作支援の現場に向き合う支援者や創作活動に関わる福祉や芸術関係者、計19名に対し項目表の検証を行い、妥当性の確認と同時に、項目表によって専門領域や立場の違いによる現場に関わる意識の相違を可視化している。

以上のように本研究は、障がいのある人の創作活動に関する「指標（項目表）」と「考え方の規範」を呼応させ、議論や実践を行う新たな仕組みを構築する独自性の高い研究内容となっている。

したがって本審査委員会は、本論文を博士（芸術工学）の学位に値するものと判断した。